

「やさしさと笑顔いっぱい」の学校



千早赤阪村立千早小吹台小学校

校長 當麻 裕彦 (とうま ひろひこ)

「やさしさと笑顔いっぱい」というのが本校のキャッチフレーズで、職員室や学校のフェンスにも掲示されています。素敵な言葉です。平成31年度（令和元年度）も、このような学校づくりを強力に押し進めてまいります。

「やさしさ」とは、単に「やさしくできる」という行動だけを意味するものではありません。行動には表れなくても、相手を思いやる気持ちやいたわる気持ちを持つことができるということが大切です。本校の子供は、そんな子であってほしいと願います。そして、子供たちはもちろん、職員も、ご家庭でも、地域でも本当の「笑顔」であふれるようになれば素晴らしいと思っております。これは、テーマとする目標ですが、具体的には下記のように平成31年度（令和元年度）の教育目標を設定しました。「ともに学び ともに育つ」支援教育の視点を踏まえた学校づくり。学力向上の取り組みの充実。開かれた学校づくりを重点目標とし、子供たちのために、全職員が一丸となって、目標実現のために日々努めてまいります。

次ページに教育目標について書いておりますので、ご覧ください。



「やさしさと笑顔いっぱいの学校」

めざす子ども像

「豊かな心」・「確かな学力」・「健康な身体」

人の気持ちがわかる子・すすんで学ぶ子・元気でたくましい子

■「ともに学び、ともに育つ」

支援教育の視点を踏まえた学校づくり

- 集団の中で一人ひとりがお互いを尊重し、ちがいを認め合い、自尊感情を高める学級経営、学級集団づくり、異年齢集団づくりに努める。
- すべての子供が学びやすい千早小吹台小学校をめざして。ユニバーサルデザインの観点を取り入れた「授業づくり」と「学校経営」の推進。
- 「学級づくり」「授業づくり」スタンダードの活用や児童についての「気づき」を大切にし、一人ひとりの児童の教育的ニーズに応えられる学校体制の構築を行う。

■学力向上の取り組みの充実

○授業の質を向上させる

・授業規律の定着

授業スタンダードを示し、「めあて」「自分の考え」「ふりかえり」を大切にされた授業づくりを行う。また、「学習用具のきまり」プリントによる各学年での取り組みにより、学びに向かう力を高める。

・言語活動の充実、「伝える力」「聴く力」の育成 外国語教育の充実

疑問に思ったことなどを動機に「友だちはどう考えているだろう」「書物に書かれていることは何だろう」など対話を通して思考を活性化し、「できた」「そういうことか」といった学びの実感を持たせ、新たな課題が湧いてくるような学びの過程の繰り返しで深い学びがある授業づくりを行う。

本校が積み重ねてきた英語教育は、本の執筆により全国的に知られることとなった。研究の成果を全国の小学校外国語教育のために役立ててもらうことは今年度の本校の使命である。

○自学自習力をつける

自主学习ノートの学校としての導入と活用で自学自習力の定着と質の向上をめざし、普段のノート指導も充実させる。

■開かれた学校づくり

- 郷土である大阪府唯一の村、千早赤阪村に愛着と誇りをもつ子供たちを育むために、郷土学習、歴史学習、金剛山や棚田に親しむなど郷土にちなんだ学習を積極的に行う。
- 「学校支援地域本部」の活動を活発にし、地域住民や保護者にも積極的に教育活動に参画してもらうことを通じて学校の理解をより広めていく。